

コロナ感染予防対応!

WEBセミナー
受講可能!

新規プロバイオティクス・プレバイオティクス・シンバイオティクス製品開発のための、効果的な腸内フローラの制御法

～腸内フローラの基礎、解析方法から開発のポイントまでを体系的に解説～

◆日時：2020年8月5日(水) 10:00～16:30 ◆受講料：(消費税等込) 1名:49,500円
◆会場：連合会館 405号室 同一セミナー 同一企業同時複数人数申込の場合 1名:44,000円
(東京・JRお茶の水駅下車 徒歩約5分)

腸内フローラの恒常性維持・増進の効果的な方法、プロバイオティクス・プレバイオティクス・シンバイオティクスの機能性に関する最新情報、腸内フローラの機能的マーカー、臨床領域における腸内フローラ異常と疾患との特異的な関係、製品開発のための戦略などについて、実践的に詳しく解説する特別セミナー!!

【講師の言葉】
腸内フローラには驚くほど恒常性維持能力が備わっています。しかしながら、一端これが破たんすると、宿主の健康に悪影響を及ぼすことを明確に示す報告が蓄積しています。
本セミナーではまず、基本的な腸内フローラ構造の概要を説明し、腸内フローラの破たんが誘導する疾患について、可能な範囲でその作用メカニズムを含めて解説します。その中でも最も大きな要因と考えられる栄養、特に複合炭水化物の役割に着目します。さらに、プロバイオティクス、プレバイオティクスおよびシンバイオティクスの保健作用について多くの臨床研究報告を参照しながら、腸内フローラやプロ(プレ、シン)バイオティクスの基礎・応用研究の現状と問題点、およびその解決策について解説します。さらに、新規なプロバイオティクス菌発掘と有効な研究・開発のためのさまざまなポイントを提示します。
以上のポイントについて、聴講される方々の系統的な理解を意図した説明を心がける所存です。

【受講形式】 会場・WEB
【受講対象】 食品・製薬メーカーの研究開発、技術者、臨床機関に勤務する栄養士、薬剤師、臨床検査技師、研究者など
【予備知識】 ・基本的な生物・化学の一般知識 ・基本的な微生物学知識
【習得知識】 1)健康と極めて関連する腸内フローラの恒常性を維持・増進するための効果的な方法とは？
2)プロバイオティクス、プレバイオティクス、シンバイオティクスの機能性に関する最新情報 本邦では？ 世界各国では？
3)腸内フローラの機能的マーカーとしての腸内環境の有用性
4)臨床領域における腸内フローラ異常と疾患との特異的な関係
5)新たなプロバイオティクスやプレバイオティクス、シンバイオティクス製品開発のための戦略

◆セミナーお申込要領

●申し込み方法
・弊社ホームページの申込欄又は、FAXかE-mailにてお申し込みください。
・折り返し、受講票、請求書、会場案内図をお送り致します。
・開催日の8日前以内のキャンセルは、お受け致しかねますので、必要に応じ代理の方のご出席をお願いします。
・開催日の8日前以内のキャンセルの場合、受講料の全額を申し受けます。

●お支払い方法
受講料は原則として開催前日までにお支払い願います。経理上、受講料のお支払いがセミナー開催後になる場合は、お支払日をお知らせ願います。振り込み手数料は御社の御負担にてお願いします。

●申込先

 **(株)TH企画セミナーセンター**
〒108-0014 東京都港区芝5-30-1-210
TEL:03-6435-1138
FAX:03-6435-3685
E-mail:th@thplan.com

検索 TH企画 → サイト内検索 0805

詳細、その他のセミナーは、ホームページをご覧ください。
<http://www.thplan.com/>

◆プログラム◆

【講師】 東京農業大学生命科学部 分子微生物学科
動物共生微生物学研究室 教授 野本 康二 先生 薬学博士
(株)ヤクルト本社 中央研究所を経て現職

| | |
|--|--|
| <p>1. 腸内フローラの基礎</p> <p>1-1) 腸内フローラの基本構造:数、種類、嫌気性菌、通性嫌気性菌、日和見病原菌</p> <p>1-2) 腸内フローラの解析方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・培養法:嫌気培養、選択培養 ・分子生物学的方法:次世代シーケンサーを利用した網羅的解析、定量的PCR(RT-PCR法)、FISH法、メタゲノムによる機能性解析 <p>2. 腸内フローラの恒常性を保つ、あるいは乱す要因</p> <p>2-1) 腸管免疫</p> <p>2-2) 腸管上皮粘膜細胞の統合性</p> <p>2-3) 腸内環境:有機酸濃度、pH、腐敗産物濃度、胆汁酸</p> <p>2-4) 様々な疾患(消化器、免疫、精神・神経系、生活習慣病など)における特徴的な腸内フローラの異常</p> <p>2-5) バクテリアルトランスロケーション、代謝性内毒素血症</p> <p>2-6) 様々な実験疾患モデルにおける腸内フローラ異常</p> <p>3. 栄養と腸内フローラ</p> <p>3-1) 肥満と腸内フローラ</p> <p>3-2) 栄養不良と腸内フローラ</p> <p>3-3) 複合炭水化物:食物繊維、プレバイオティクス(各種オリゴ糖)</p> <p>3-4) 腸内有機酸</p> <p>4. 腸内常在有用菌</p> <p>4-1) ビフィズス菌</p> <p>4-2) Faecalibacterium prausnitzii</p> <p>4-3) Akkermansia muciniphila</p> <p>4-4) Bacteroides fragilis</p> <p>4-5) Clostridium coccoides spp.</p> | <p>5. 腸内常在の日和見有害菌</p> <p>5-1) 腸内細菌科菌群:大腸菌、Klebsiella pneumoniae, 等</p> <p>5-2) Clostridium perfringens</p> <p>5-3) C. difficile</p> <p>5-4) 黄色ブドウ球菌</p> <p>5-5) 食中毒微生物:サルモネラ菌、腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス、ロタウイルス</p> <p>6. プロバイオティクス</p> <p>6-1) プロバイオティクスとは?</p> <p>6-2) 主なプロバイオティクスの保健作用</p> <p>6-3) プロバイオティクスの作用メカニズム:代謝調節、免疫調節、接着性</p> <p>6-4) プロバイオティクスの最近の基礎および臨床研究の情報</p> <p>7. 臨床領域におけるプロ(シン)バイオティクスの利用</p> <p>7-1) 消化器外科・内科</p> <p>7-2) 救命救急</p> <p>7-3) 小児外科・新生児科</p> <p>7-4) 腸管外:口腔、膣</p> <p>7-5) アレルギー・がん</p> <p>8. 新規なプロバイオティクス開発のポイント</p> <p>8-1) 常在性細菌の可能性</p> <p>8-2) 便微生物移植</p> <p>8-3) 腸内定着性:colonization resistanceの制御</p> <p>8-4) 生菌と死菌:菌体成分や特異的構造</p> <p>8-5) 接着性:adhesin</p> <p>8-6) 適正な摂取量</p> <p>8-7) 菌株特性:作用メカニズムとの関連</p> <p>8-8) 臨床作用とリンクするバイオマーカー</p> <p>8-9) ヒト以外の動物における健康と腸内フローラ</p> |
|--|--|

●申込書・2020年8月5日(水)「新規プロバイオティクス・プレバイオティクス・シンバイオティクス製品開発のための、効果的な腸内フローラの制御法」

| | | |
|------------|---|--------|
| 会社名 | 〒 | 住所 |
| TEL | | FAX |
| 正式所属 | | 正式所属 |
| 受講者名 | | 受講者名 |
| E-mail | | E-mail |
| 振り込み 予定 | | 通信欄 |